

平成 27 年度第 1 回 新潟市地域公共交通会議質疑要旨

1. 開催日時

平成 27 年 7 月 3 日（木）午前 10 時 00 分～11 時 30 分

2. 会場

新潟市役所分館 6 階 1-601 会議室

3. 出席者（敬称略）

委員

新潟市都市政策部長 大勝孝雄

新潟県バス協会専務理事 高橋清吉

新潟県ハイヤー・タクシー協会専務理事 鈴木久夫

新潟市消費者協会会長 本多満喜子

市民代表（公募委員） 松川由人

国土交通省北陸信越運輸局新潟運輸支局首席運輸企画専門官 蝶名林幸雄

新潟県警察本部交通部交通規制課交通規制管理官 三五紀男

新潟市土木部長 大沢藤雄

事務局

新潟市都市政策部都市交通政策課

区役所

新潟市秋葉区地域課

新潟市西区地域課

4. 議題

(1) 夏休み子供ワンコインバスについて

① 区バス・住民バス夏休み子供ワンコインバス資料に基づき都市政策部都市交通政策課の説明

② 質疑応答

（意見・質問）松川委員

- ・ 新潟交通の路線バスと期間は同じか。

⇒（回答）都市交通政策課

- ・ 同じ。

（意見・質問）松川委員

- ・ 区バスや住民バス、今回の坂井輪地区住民バスは、りゅーとカードに対応して

いる。システムの変更等の手間、費用がかかるが、現金払いの他に、りゅーとカードを使えるようにしてはどうか。そのことで、より普及を早められるのではないかな。

- ・ また、坂井輪地区住民バスは、新しい商業施設に乗り入れるようだが、子供用りゅーとカードを提示することで何か粗品を進呈するなど、りゅーとカードの拡大、それを通じた利用者の拡大、商業の活性化、そういうことまでつなげられないかと思うが計画や考えはあるか。

⇒ (回答) 都市交通政策課

- ・ りゅーとカードの拡大については、今の話から少し外れるが、今年から未来ポイントでりゅーとカードを活用した取り組みを進めている。
- ・ 子供の割引もりゅーとカードが使えるようにするというのは、松川委員の言われた通りシステムの改修などで費用が掛かるため、事業者との協議が必要である。今までの区バス・住民バスは、りゅーとカードの使えるリーダーが付いていないバスが多かったため現金という対応しかできなかったが、これから区バス・住民バスにもりゅーとカードのリーダーが付いてくれば、りゅーとカードを使えるよう検討していきたい。

(意見・質問) 大勝委員

- ・ 50円割引は、どのような効果的があるか。数値的なものはあるか。

⇒ (回答) 都市交通政策課

- ・ 数値的なものは把握していないが、今後調査していきたい。

(意見・質問) 鈴木委員

- ・ 実施と未実施の路線があるが、未実施の理由はあるか。

⇒ (回答) 都市交通政策課

- ・ 南区の区バスは、すでに通常から小学生運賃が50円となっており、南区の月潟地区住民バスも通常から50円となっているので審議の対象でない。
- ・ 住民バスは住民団体が運営しているが、今までは運行経費の70%まで新潟市が補助金を交付している。そのため、運行経費の30%を運賃収入で賄ってもらっているが、運賃収入などが30%無い場合は、住民団体の負担となっている。こういった住民バスは、運営が厳しいことから、割引ができなかったということである。

(意見・質問) 蝶名林委員

- ・ モビリティマネジメントということで、まず、子供に乗っていただくと、その子供が大きくなってからもバスを利用していただけるということで、バス会社にとって非常に良いお客様となる。
- ・ りゅーとカードは、システムを変えればお金がかかるが、りゅーとカードを見せることによって、子供であれば、アメを1個プレゼントするとか、そういうようなことをやるだけで、子供は喜んで乗ってくれるかもしれない。そうするとお

じいちゃん、おばあちゃんも連れてバスへ乗りに行こうとなる。

- ・ すべての区バスに乗った人には、景品プレゼントのようなノベルティをつければ、全体的に利用が上がるし、参加していない住民バス団体も参加したいと思うかもしれない。

⇒（回答）都市交通政策課

- ・ そういったMM（モビリティマネジメント）で、子供が、バスに対して興味や意識をしてもらうというのは非常に有効である。子供の意識が変わってくると親の意識も変わってくるというような講演を聞いたこともある。
- ・ 今後新潟市としても積極的にMMを進めていきたい。

③採決

- ・ 出席者全員の賛成で区バス・住民バス夏休み子供ワンコインバスを承認

(2) 秋葉区・区バス運行計画（変更）について

①秋葉区・区バス運行計画（変更）資料に基づき秋葉区地域課の説明

②質疑応答

- ・ なし

③採決

- ・ 出席者全員の賛成で秋葉区・区バス運行計画（変更）を承認

(3) 西区・坂井輪地区住民バス運行計画（変更）について

①西区・坂井輪地区住民バス運行計画（変更）資料に基づき西区地域課の説明

②質疑応答

（意見・質問）松川委員

- ・ 西区の沿道の各商業施設、病院、駅などを回ってみたが、坂井輪地区住民バスのパンフレットと時刻表が置いてあったのはアピタだけであった。イオンには路線バス、新潟医療センター病院は路線バスとJRのみの時刻表の表示があった。
- ・ PRがまったく無かったのが小針、寺尾の両駅、清水フード、それから一番気になっているのが、区役所にまったくPRが無いということがすごく気になっている。
- ・ 新しい施設「いっぺこ〜と」に乗り入れても、誰も知らないということになると、利用が見込めない。行政側のバックアップが必要だと思う。また、病院への通院需要に対しても時刻表の表示をした方が良い。
- ・ また、一日乗車券を作って、アピタやイオンなどの商業施設を経由することで優待が受けられるようにすると、利用促進につながると思う。特に、土日の収支率が、平日に比べて低いので、そういったことを考えてはどうか。

⇒（回答）西区地域課

- ・ 運行団体では、会報を年4回発行し、自治会や会員へ配布するなど利用者の拡

大を図っている。

- ・ 時刻表は、各商業施設や病院などの見やすいところに設置して頂くようお声掛けをしており、時刻が変わった時には持ち回りして配布している。
- ・ そのようなことでPRには取り組んでいるが、まだまだご指摘のように足りない部分もあると思う。
- ・ 時刻表の配布についても、もちろん区役所便りやホームページなどから広く周知を図る予定であるが、ご意見を頂戴いた一日乗車券など、更なる利用促進の取り組みについても考えていきたい。

(意見・質問) 松川委員

- ・ 3月20日の新潟日報で、豊栄駅の自由通路に、北区内の公共交通の総合案内板が設置されたと記事にある。この案内板は、住民バスや区内の病院が運航する無料バスまで全部載っている。
- ・ また、江南区の取り組みで、区内の公共交通が全部載ってる公共交通マップがある。カナリア号や区バスも全部載っており、乗換拠点もすべて書いてある。この公共交通マップでは、カナリア号が来ない時間だと思っても、運行が並走する区バスに乗ることができるかと分かり、利用促進が図れると思う。
- ・ 9月5日の新バスシステム導入で、路線が激変するので、それを機に是非公共交通マップを作成し、町内会の回覧板に挟み込むとか、新聞に折り込むなどでPRを図っていただきたい。

⇒ (回答) 西区地域課

- ・ PRの事例なども研究しながら、利用率の向上に向けて取り組んでいきたい。

(意見・質問) 三五委員

- ・ 利用者数に対してバスが大きいような感じがする。何か理由があるか。
- ・ 運行ルートを見ると、商業施設が多い地区のT字路に入っていくということで、休日などに、交通渋滞が発生するようであれば、地元警察署ともよく調整して頂ければと思う。

⇒ (回答) 西区地域課

- ・ バスの大きさは、事業者のバス車両の保有状況でこの大きさとなっている。また、商業施設周辺の運行時に、時間帯によっては大勢が乗車した場合、乗り残しが生じるような懸念もあるので、運行状況も見ながら検討していく。
- ・ 交通渋滞については、特に亀貝のT字路の区役所方面に行く右折レーンの渋滞が指摘されている。西警察署とも協議し、信号機の時間調整を行っていただいたところであるが、今後も交通状況を注視していきながら、例えば道路中央部分にあるゼブラ帯を活用した右折車線の追加など、西警察署と検討をしていきたいと考えている。

⇒ (回答) 都市交通政策課

- ・ バス車両についての補足として、今後、事業者が車両の入れ替えをしていくなかで、ノンステップバスや小型バスを導入していくこととなると思うが、今の状況では、現実的に小型のバスがない。

- ・ 渋滞については、この9月5日の路線再編で、このコミュニティバスだけではなく路線バスも走ることになるので、状況を見ながら西警察署と協議するということになる。

③採決

- ・ 出席者全員の賛成で西区坂井輪地区住民バス運行計画（変更）を承認

5. その他

（意見・質問）松川委員

- ・ 秋葉区の区バスでは、9、19、29日に乗ると花の種プレゼントというのがある。また傘の貸し出しもあり、すごく一生懸命やっていると思った。そこで、より利用が増えるようにと思い、いくつかの案を考えた。
- ・ 新津駅西口から出た区バスは、区役所を出た後、ショッピングセンターを素通りする形で古田2丁目までバス停がない。消防署前のauショップとホームセンターコメリの前に、バス停を作るとより利便性が上がると思う。
- ・ それから、西区と一緒にPRの強化として公共交通の総合案内板や公共交通マップの作成をお願いしたい。
- ・ また、区バスと路線バスは一部ルートが違うが、新津と小須戸の間で並走している。白根から矢代田を経由して新津と結ぶ路線バスは、3時間くらい便が空く時間があるが、区バスと路線バスの時刻を合わせてみると、新津から小須戸に関しては、路線バスが3時間空く時間帯に区バスが運行されていることが分かる。一方、新津駅と秋葉区役所の間は、新潟市内から行く路線バスと薬科大学に行く路線バスと区バスの3つの路線がある。駅の発車時刻表のようなものを作って、3つのバス時刻を掲載するとそれなりの便数があることが分かる。この3つの路線は、ルートの途中で一部違いがあるが、ここで公共交通マップがあると、どのバスに乗るとどこに行けるかが分かり、利便性の向上が図られる。
- ・ 区バスの昨年度の収支率は34%で、増便は難しいと思うので、今ある資源をどうやって有効活用するかそういった視点での提案である。

⇒（回答）秋葉区地域課

- ・ 江南区のように、路線バスと区バスの連携した時刻表や公共交通マップを作成していきたいと思う。

（意見・質問）鈴木委員

- ・ 先ほど運輸支局の蝶名林委員からMMの話があったが、バスと同様にタクシーにも同じようなことが言える。たとえば、保育園等で急病になった際にお出迎えに行くとか、塾へ通う際に送り迎えをしっかりとするということができれば、子供やご家庭からも信任が得られる。そんなことで、MMについてしっかりとやって行きたい。
- ・ 新潟市からも一緒にPRなどお願いしたい。
- ・ また、ホームページや全国タクシーガイドというものを作っているが、より分かりやすく使ってもらうために、いい提案があったら教えていただきたい。

⇒ (回答) 都市交通政策課

- ・ タクシーも大切な公共交通というふうに認識しており、今後ともいろいろと一緒にやっていきたい。

(意見・質問) 松川委員

- ・ 秋葉区の生活交通改善プランでは、「将来交通体系イメージ」の中で、住民バスまたはデマンドタクシーの記載がある。以前に社会実験をしているが、デマンドタクシーは、まだまだ課題は多いようだ。
- ・ 南区、北区のデマンドタクシーは、それぞれ制度が違っている。登録した人だけ、あるいは誰でも乗れる。料金もバラバラである。
- ・ 新潟市として、空白地区を埋めるためのデマンドタクシーをどうあるべきか議論が必要と思っている。
- ・ 秋葉区の区バスに乗った時に、新津駅西口で2人乗車し小須戸で降りた。小屋場で1人乗車し新津駅東口で降りた。以前の区バスの路線は、循環ではなく新津駅東口を出発して「うららこすど」が終点だったが、空白地域をなくすため循環にした。そのため、運行距離が延びるので8便から7便に減便している。これからもこの地域を区バスでカバーできるのか。だからと言って空白地域を作れない。ここでデマンド交通の出番になる。
- ・ デマンド交通は、お金も相当にかかるので、どこまでやるのか見極めが必要である。タクシー業界と連携して、今ある体制とシステムを有効活用していくことで、住民の方々の足も確保して、移動の不自由を無くす。将来どうするというのがまだ見えてこないの、位置づけをきっちりお願いしたい。

⇒ (回答) 都市交通政策課

- ・ 松川委員のお話のように、今、北区と南区で社会実験を行っており、その制度も言われるようにバラバラで、バス停のような場所を決めている所もあれば、決めないでドア・トゥ・ドアで迎えに行く運用方法もある。予約制なのか予約制でないのか、いろいろな運用方法がある中で、その地域、場所によってどの運用方法が一番適しているのか、というのを探っている状況である。デマンド交通を行おうとしたときに一番ポイントになるのが乗合で、タクシーに一人で乗ると、通常のタクシーと何ら変わらなくなる。乗合率というのがデマンド交通の一番の要素として必要なことと思っている。社会実験中の北区での乗合率は、2に届いていない。2以上あって初めて乗合というのが成立するが、それをどのような方法で乗合率が2以上になるのかというあたりを研究している。

松川委員から紹介して頂いたが、システムを導入することで配車や送迎の効率化が図られるが、導入にはお金がかかってくるので、そのあたりも探っている。

- ・ 秋葉区でデマンド交通を取り入れるにしても、どの地域が一番合うのかというあたりも、社会実験をしてからと考えている。

⇒ (回答) (秋葉区地域課)

- ・ 区の自治協議会の中で、空白地域をなくすべきだというご意見があり、デマ

ンド交通社会実験の実施に至ったが、利用率が上がらなくて本格実施までには至らなかった。松川委員ご指摘の区バスの地域については、今コミ協を中心に住民バスの勉強会をしようというところ。

- ・ 実際に、小須戸矢代田地域の方々から勉強会をしたいという申し入れもいただいている。時期はこれからになるが、いずれ社会実験などをして区バスでも補完できない地域の空白の部分の部分を補えないのか検討している。

(意見・質問) 三五委員

- ・ 高齢者事故防止に対するご協力をお願いします。
- ・ 現在、県警では、高齢者の方が交通事故で亡くなることが多いということで、事故防止対策を進めている。
- ・ 平成26年中の県内の交通事故で亡くなった方の中での高齢者の割合は、103名中66人の64.1%で、高齢者が半数以上を占めており、11年連続で続いている。また、高齢者の方が加害者となった事故で亡くなれる方の割合も、103名中36名で、割合も年々上がっている状況である。今年に入ってから、高齢者の方の亡くなる事故が多いということで、警察としても事故を何とかストップさせたいということから、いろいろなことを考えて対策を行っている。各警察署あるいは県警本部から相談や協力の依頼があると思うので、よろしくお願いします。
- ・ また、自動車を運転される方だけではなく、自転車に乗られる方、あるいは歩かれる方も、それぞれが交通ルールを守っていただくというのが、一番大切なのかと思うので、皆様の周りの方にも事故にあわないようひと声かけていただければありがたい。

(意見・質問) 蝶名林委員

- ・ 各区の御担当者から、本当に一生懸命区の方々のお話を聞いて良くしていこうというというような話をいただいたところであるが、できれば、ご利用される方々のお話の他に、実際ハンドルを握っておられる運転手の方々からお話をお聞きになられると、意外と生の情報やその地域に密着したような話が聞けるので、ご検討いただければと思う。

6. 傍聴者 3名